



④ ちょっと低めのシャワーヘッド

フルリノベされた古民家を借りて暮らしている2人。バスルームに備えられたシャワーヘッドがかわいくてお気に入りだが、「ちょっと低いから、膝を曲げながら使っています(笑)」。低いけど、かわいいから良いのだからか。



好きの根っこが同じ2人だから、インテリアもいい感じにまとまる



⑤ 毎日の生活を丁寧に。

それが映像に生きる

料理が好き、器が好き、何より食べることが好きな拓真さん。器や鍋、調味料が入った竹かごなど、ちょっと味のあるものに溢れているキッチン。「ニューヨーク時代に出会って、熊本に来るキッカケにもなった女優で映像プロデューサーの友人に、「毎日の生活をしっかりしないとダメだよ。それが作品作りに戻ってくるから」と教えられ、それから衣食住を充実させるということが、僕のテーマになりました」。フォークひとつから、映像製作のインスピレーションにつながると思え、「これも映像に使えるかも…」と考えセレクトしているという。



⑥ 千栄子さんが座っているイス

拓真さんが独身時代に近所のアンティークショップで購入したイス。「雑すぎで、抱えて帰りました」。その姿、見てみたかった。



千栄子さん 拓真さん

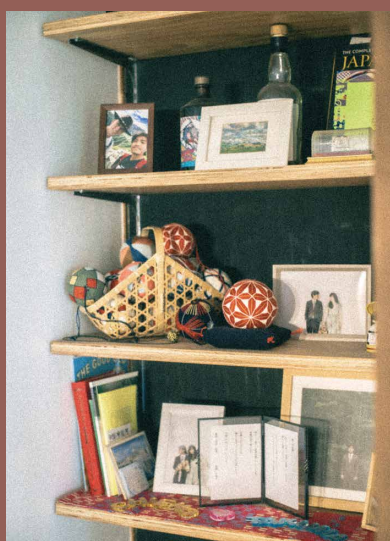
⑦ アンティーク家具を贈り合う2人

食器棚や靴箱は、お互いの誕生日に贈り合ったもの。靴箱から出てくる「肥後駒下駄」に、「この靴箱から出てくる、この感じがかわいいですよ!」と笑顔の拓真さん。映画のワンシーンにありそうだ。



⑧ 懂れているのは所ジョージさん

拓真さんが学生の頃から懂れているのは所ジョージさん。高校時代、自転車を走らせ「世田谷ベース」を覗きに行った事もあるとか。「アメリカンヴィンテージに惹かれて、服なんかも真似しています」。なるほど!「松田くんといえば、コレだよな」という声を聞くほど、いつでも一緒に相棒・パイロットハットを被っているのも納得。「コレは、ブルックリンの古着屋で見つけたもので、7年ほどの付き合い。撮影や打ち合わせなど、これを被っていると覚えてもらえるんです」と拓真さん。機能性も高く、真冬の撮影もへっちゃらとか。



⑨ 千栄子さん手作りの

伝統工芸品・肥後まり

さりげなく棚に飾られた肥後まりは、千栄子さんが「熊本国際民藝館」で行われる教室に通い作ったもの。2人の結婚式の際、テーブルに飾った思い出も加わり、さらに愛着が。他にも、絵付け体験をした花手箱や産一こまなど、かわいくて歴史のある伝統工芸品があちらこちらに。2人ともお茶を習うなど、伝統文化にふれることが多いのも素敵な共通点。



と ある一軒の古民家に暮らす映像作家の松田拓真さんと、奥さまの千栄子さん。

昭和45年に建てられたその家は、2人の好きなもので満ちていた。この家で暮らし始めたのは約2年前。「それぞれの好きなものを持ち寄っても意外としっくりきましたね。ちよつと違うなって思うのがあつても、話し合つて解決したし」と拓真さん。共通して好きなものは、器や古いもの。部屋のあちらこちらに味のある家具や照明などが配され、水屋には「これはいつ買った、どこで買った」と思いうかが詰まった器が並ぶ。「古いもの、昔のもの

だから好きというより、惹かれたものがたまたま昔のものだったという感じですね。2人が惹かれてこの家に集つたあれこれを、覗かせていただこう。



⑩ 松田 拓真さん

埼玉県生まれ、東京都育ち。ニューヨークの大学で映像を学び、帰国。縁あって、はじめて訪れた熊本で、新島町の映画製作に携わり、そのまま移住。映像制作会社「Hub.craft」に在籍しながら、自身の映像作品や熊本のPR映像などの製作に携わる。

⑪ 松田千栄子さん

大分出身。海外の人たちに熊本の魅力を伝えるウェブサイト「Untapped Kumamoto」を運営。活動を通して、自らも熊本の歴史・文化に興味を持ち、自然と古きよきものに惹かれるように。

昔だから好き、というより惹かれたものが、たまたま昔のものだった

レトロな暮らしおじゃまします!

